

言語学専修

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 開講 セメスター | 曜日 | 講時 |
|-------------------|--------------------|----|--------------------------------|-------------|----|----|
| 現代言語学概論 | 言語学入門 | 2 | 小泉 政利 | 3 | 金 | 2 |
| 現代言語学概論 | 言語学入門(運用) | 2 | 木山 幸子 | 4 | 金 | 2 |
| 現代言語学基礎講読 | 語用論研究法入門 | 2 | 木山 幸子 | 3 | 月 | 2 |
| 現代言語学基礎演習 | 言語のカテゴリカル データ分析 | 2 | 木山 幸子 | 4 | 火 | 2 |
| 言語交流学基礎講読 | 危機言語論 | 2 | 後藤 斉 | 3 | 火 | 2 |
| 音声学 | 音声学概説・調音音声 学 | 2 | 那須川 訓也 | 3 | 水 | 4 |
| 音声学 | 音響音声学 | 2 | 後藤 斉 | 4 | 水 | 4 |
| 現代言語学各論 | 言語と思考 | 2 | 小泉 政利 | 6 | 水 | 3 |
| 現代言語学各論 | 音韻論概説 | 2 | 那須川 訓也 | 5 | 水 | 3 |
| 現代言語学各論 | 言語の対照研究 | 2 | 井上 優 | 集中(6) | | |
| 現代言語学各論 | コーパス言語学の理論 的基盤 | 2 | 後藤 斉 | 5 | 月 | 2 |
| 現代言語学各論 | テキスト処理の基礎 | 2 | 後藤 斉 | 6 | 月 | 4 |
| 言語交流学各論(学習・言語心理学) | 学習・言語心理学方法 論 | 2 | 木山 幸子 | 5 | 水 | 2 |
| 言語交流学演習 | 言語実験・調査実践 | 2 | 木山 幸子 | 6 | 水 | 2 |
| 現代言語学演習 | 言語学研究法 I | 2 | 後藤 斉 小泉 政利 木山 幸子 熊 可欣 | 5 | 金 | 3 |
| 現代言語学演習 | 言語学研究法 II | 2 | 後藤 斉 小泉 政利 木山 幸子 | 6 | 金 | 3 |
| 言語交流学演習 | 実践音声学 | 2 | 後藤 斉 | 6 | 金 | 2 |

言語学専修

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 開講 セメスター | 曜日 | 講時 |
|---------|----------------------|----|--------|-------------|----|----|
| 言語交流学演習 | 統語論初級 | 2 | 小泉 政利 | 5 | 水 | 5 |
| 言語交流学演習 | 統語論中級 | 2 | 小泉 政利 | 6 | 水 | 5 |
| 言語交流学演習 | 言語のパラメトリック データ分析法 | 2 | 熊 可欣 | 5 | 火 | 2 |

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB35205, 科目ナンバリング：LHM-LIN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語学入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Linguistics

3. 授業の目的と概要：

現代言語学の研究目標，研究対象，分析方法，基礎的概念などについて学びます。今年度は特に，音韻論と形態論の分野に焦点を当てます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We will study the purpose, research objects, analytical methods, and basic concepts of modern linguistics. We will focus on phonology and morphology, in particular, among the subfields in linguistics.

5. 学習の到達目標：

(1) 現代言語学の研究目標と研究対象を理解する。

(2) 音韻論，形態論，統語論の基礎的な概念を理解し，それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) To understand the purpose and research objects of modern linguistics

(2) To understand the basic concepts of phonology, morphology, and syntax, and be able to analyze familiar linguistic phenomena

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 音声学 1：調音音声学
3. 音声学 2：音響音声学
4. 音声学 3：聴覚音声学
5. 音韻論 1：音素
6. 音韻論 2：音節
7. 音韻論 3：韻律
8. 音韻論 4：音韻現象
9. 形態論 1：単語
10. 形態論 2：形態素
11. 形態論 3：接辞
12. 形態論 4：語形成
13. 統語論 1：統語構造
14. 統語論 2：移動
15. まとめと筆記試験

8. 成績評価方法：

概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。

筆記試験 60%、ミニット・ペーパー20%、レポート 20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て，自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB45204, 科目ナンバリング：LHM-LIN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語学入門 (運用)

2. Course Title (授業題目) : Introduction to pragmatics

3. 授業の目的と概要：

ことばは、様々な状況で、様々な相手と、様々な目的で用いられます。「語用論」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまで発展してきた語用論の理論の概要を理解し、それらの理論を検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Language is used for various purposes with various interlocutors in various situations. The study of pragmatics concerns the processes through which a linguistic expression can have many different meanings depending on context, situation and interpersonal relationship. This course surveys some familiar language phenomena which are meaningful in terms of pragmatics, so that students will understand the major theories and empirical findings conducted to confirm those theories.

5. 学習の到達目標：

身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、実際の人間の言語使用は使用者の特性（個人間および個人内の差）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Upon completion of this course, each student should have an analytic perspective of pragmatic language phenomena around us. They are also expected to have the attitude with which they understand and accept that actual human language uses highly depend on individual characteristics (both between- and within-individual variations).

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

あいさつ：対人関係構築の端緒を開く

呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？

あいづち：促しか？さえぎりか？

敬語の古今：通時的变化をたどる

敬語の東西：共時的变化をたどる

間接的発話行為：なぜはっきり言わないの？

ことばと感情：話し手の気持ちが現れる言語マーカー

子どものことば：発達における共同注意の役割

ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？

母語と外国語：その習得過程の違い

ことばと加齢：衰える機能、保たれる機能、向上する機能

ことばの障害：語用論的処理を中心に

8. 成績評価方法：

毎回授業の最後に課すワークシート (50%)、筆記試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学基礎講読／ Modern Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB31202, 科目ナンバリング：LHM-LIN208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：語用論研究法入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Research Methodologies of Pragmatics

3. 授業の目的と概要：

ことばの上には、意識的であれ無意識であれ、使い手の意図や気持ちが現れます。語用論は、そのようなことばとそれを使う人間との関係を解明しようとする学問です。本科目では、語用論で扱われる主要なトピックや理論について、受講生自身に文献を調べてまとめ、他の受講生と共有してもらいます。さらに、語用論研究における興味深い独創的テーマを自ら見出す訓練として、期末レポートで仮想語用論研究計画書をまとめてもらいます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

A linguistic form reflects its user's conscious and un(sub)conscious intentions and feelings. Pragmatics is the study of the relationships between language and persons who use them. This course requires students to summarize a research article on the major topics and theories of pragmatics to share with other students of the class. Also, students must write the final paper in which they propose an imaginary research plan of any interesting, novel topic in the field.

5. 学習の到達目標：

語用論の関心事と主要理論の概要を理解し、そこから独自の妥当な研究課題を設定できるようになる。自身が調査した文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Upon completion of this course, students will have an essential understanding of the major topics and theories of pragmatics, and also be able to form a novel reasonable research question in this field. Students are expected to improve effective skills using their everyday vocabulary to share major points of research papers in this field with those who without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

語用論研究の広がりとお行き (教員)

指示詞 (受講生)

代名詞 (受講生)

文末詞 (受講生)

量化詞 (受講生)

文法化 (受講生)

Grice の協調の原理 (受講生)

Searle の発話行為理論 (受講生)

Brown & Levinson のポライトネス理論 (受講生)

Sperber & Wilson の関連性理論 (受講生)

Braon-Cohen の心の理論 (受講生)

語用論研究の未来 (教員)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献を配布する。

10. 授業時間外学習：

受講者全員にグループ発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学基礎演習／ Modern Linguistics (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB42205, 科目ナンバリング：LHM-LIN209J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語のカテゴリカルデータ分析

2. Course Title (授業題目) : Categorical data analysis of language

3. 授業の目的と概要：

本科目では、言語研究に必要な統計的データ分析の実習を行います。言語使用に関する様々なデータについて、統計ソフトウェアRを使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今期は、カテゴリカルデータ（ある基準によって分類された離散データ）の分析を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This is a practical course to cover a range of statistical methods required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course covers categorical data analyses.

5. 学習の到達目標：

言語研究で用いられる基本的な統計分析手法の要点を、とくにカテゴリカルデータの側面について把握し、自身が扱う言語データについて研究課題に応じて適切な分析法を応用できる素地を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical methods used in language studies, especially focusing on categorical data, to figure out the appropriate ways of analysis of your data to answer your own research questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- ・記述統計、統計的検定、統計的推測
- ・カイ二乗検定
- ・残差分析
- ・評定者間信頼性分析
- ・クラスタ分析
- ・判別分析
- ・決定木分析
- ・ロジスティック線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習（授業および宿題 50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：言語交流学基礎講読／ Interlinguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB32205, 科目ナンバリング：LHM-LIN210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：危機言語論

2. Course Title (授業題目)：Endangered Languages

3. 授業の目的と概要：

英語の使用が急速に世界的に広がりつつある一方において、多くの言語が存続の危機に瀕しており、さまざまな立場からそれに対処しようとする動きが見られる。この授業では、このテーマを扱った専門の文献を読むことにより、現代におけるこのような社会言語学的事実とその把握のしかたについて触れる。あわせて、学術的な文献における論の進め方や言語学の他の分野との関連などにも注意を払うように心がけ、専門的な英語の文章からの的確に論旨を読みとるための主体的な読解力を高めることもこの授業の大きな目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In contrast to world-wide spread of English, many languages are in serious danger of disappearance. This course aims to deepen understanding on this actual situation by reading technical literature. Emphasis will be also put to the way of adequate reading of technical literature.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門文献の読解に慣れるとともに、言語の社会的側面の一端について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will deepen understanding of actual social aspect of world languages, as well as reading technical literature in English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 講読 1
3. 講読 2
4. 講読 3
5. 講読 4
6. 講読 5
7. 講読 6
8. 講読 7
9. 講読 8
10. 講読 9
11. 講読 10
12. 講読 11
13. 講読 12
14. 講読 13
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 60%、レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

積極的に授業に参加できるように、下調べをして来ること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：音声学／ Phonetics

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：那須川 訓也（非常勤講師）

講義コード：LB33405, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：Introduction to articulatory phonetics

3. 授業の目的と概要：

この授業を通して、音声産出の仕組み、および、音声を記述する際に用いられる音声記号（IPA）の発音の仕方と書き方について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will study the mechanism of speech sound production and learn how to read and write the (IPA) phonetic symbols that are used to describe speech sounds.

5. 学習の到達目標：

この授業を通して、音声記号を読んだり、書いたりすることができるようになる。このことにより、(i)辞書に記されている発音を読むことができるようになり、且つ、(ii) 英語、日本語、その他の言語における発音の違いを説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to read and write phonetic symbols. This will allow them to (i) read the pronunciations shown in dictionaries, and (ii) explain the differences between English, Japanese and other languages' pronunciation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音声と言語研究

第2回：音声記号

第3回：声道と気流過程

第4回：発声過程

第5回：口鼻過程

第6回：構音過程

第7回：子音と母音

第8回：子音：構音位置

第9回：子音：構音方法

第10回：子音：発声タイプ

第11回：発音練習 I

第12回：母音：単母音

第13回：母音：二重母音

第14回：強勢アクセントとピッチアクセント

第15回：発音練習 II

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

発音テスト×2 (50%), 確認テスト×1 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利（編）2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版.

10. 授業時間外学習：

毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：音声学／Phonetics

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB43405, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：音響音声学

2. Course Title (授業題目) : Acoustic phonetics

3. 授業の目的と概要：

音声は物理現象でもあるから、音声言語を客観的に観察し、理解するためには音声の音響的分析はきわめて有効な手法である。この授業では、音声の物理的性質についての講義ののち、音声分析装置（パソコン）を用いた音声の取得と分析の実習を行う。基本母音と日本語の音声を用いて、波形およびスペクトログラム、フォルマント等の分析結果の読み取りを行う。その結果を、すでに知っている調音音声学的事実および聴き取りと比較してみる。

内容として理科系的な要素が強いが、この授業では複雑な数式は使わない。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In order to observe and understand spoken language, acoustic analysis is a highly effective technique, since sound is a physical phenomenon. This course covers the physical aspect of speech sounds. Students will develop skills in capturing and analysing speech sounds on a personal computer.

5. 学習の到達目標：

言語音の物理的側面の基礎を理解し、音声分析の手法に慣れることにより、言語音を客観的に観察する技術を身につける。連続音声の波形とスペクトログラムを読み取ることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students learn about basics of the physical aspect of speech sounds and develop skills in observing speech sounds in an objective manner with the help of acoustic analyses. Students will learn how to read waveforms and spectrograms of continuous speeches.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、音の物理
2. 純音の周波数と高さ
3. アナログとデジタル、サンプリングと量子化
4. パソコンにおける音声の取り扱いと音声分析装置
5. 複合音とスペクトル
6. 音源フィルター理論
7. 母音のスペクトログラムとフォルマント
8. 母音の音響的特徴（調音音声学的特徴との比較）
9. 広帯域と狭帯域のスペクトログラム
10. 子音（鳴音）の波形とスペクトログラム
11. 子音（阻害音）の波形とスペクトログラム
12. フォルマント遷移
13. 連続音声の波形とスペクトログラム、フォルマント
14. 有声と無声、VOT
15. ピッチ、まとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 40%、実習レポート 60%

授業期間中に 3 回の実習レポートを提出してもらう。レポートの書き方は指示に従うこと。

9. 教科書および参考書：

教科書：吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』（海文堂、2006）

参考書は <http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> に記載。

ほか資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

音響学分野の用語や概念が頻出するので、理解を確かなものにするため十分な復習をすること。

レポートには十分な時間をかけること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

調音音声学の基礎を習得済みであることが望ましい。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/acoustics.html> も参照すること。

講義資料の一部は次の URL に掲載する。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/phonetics/>

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-LIN303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目) : Language and Thought

3. 授業の目的と概要：

どのような語順の言語を話すか（母語に持つか）にかかわらず人間の思考で最も好まれる順序は「動作主・被動者・行為」であるとする仮説がある (e. g. Goldin-Meadow et al 2008)。この一般化が OS 言語（目的語が主語よりも前にくる語順を基本語順とする言語）の話者についても当てはまるかどうかを言語認知脳科学の様々な研究事例に基づいて検証する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

It has been suggested that the most natural order of human thought is universally “Actor-Patient-Act” regardless of the mother tongue of the speakers (e. g., Goldin-Meadow et al. 2008). We will consider whether this generalization holds true of native speakers of “object-before-subject languages,” drawing data from various studies in cognitive neuroscience of language. “Object-before-subject languages” are languages whose basic word order is one of the following: Object-Subject-Verb (OSV), Object-Verb-Subject (OVS), Verb-Object-Subject (VOS), in all of which object precedes subject.

5. 学習の到達目標：

言語と思考との関係について自分の言葉で説明できるようになること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

By the end of the course, students should be able to describe in their own words the relationship between language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに：言語と思考
2. SO 語順選好
3. カクチケル・マヤ語
4. 文理解における語順選好 I: 行動実験
5. 文理解における語順選好 II: fMRI
6. 文理解における語順選好 III: 脳波
7. 言語の基本語順と思考の順序
8. ここまでのまとめと復習
9. 文産出における語順選好 I
10. 文産出における語順選好 II
11. 文産出における語順選好 III
12. 文の理解と事象の認識
13. 文産出における処理負荷
14. カクチケル語の統語構造
15. まとめ, 筆記試験

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・課題：40%
- ・発表：40%
- ・ミニット・ペーパー：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：那須川 訓也 (非常勤講師)

講義コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-LIN303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：音韻論概説

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology

3. 授業の目的と概要：

この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節・超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns and suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：

この授業を通して、言語話者が用いている (i) 母語の音体系について、(ii) 母語が呈する音現象を制御している規則、(iii) 一般文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論と音節構造

第11回：音節ときこえ度

第12回：同化と素性

第13回：超分節現象

第14回：音韻規則

第15回：形態論的に条件付けられた音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (50%)、確認テスト×1 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版.

10. 授業時間外学習：

毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中 (6), 単位数：2

担当教員：井上 優 (非常勤講師)

講義コード：LB98819, 科目ナンバリング：LHM-LIN303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語の対照研究

2. Course Title (授業題目) : Contrastive Linguistics

3. 授業の目的と概要：

言語の対照研究は、複数の言語を比較対照することにより、(1)それぞれの言語の特性を明らかにし、(2)それぞれの言語を公平に見る(相対化する)ための視点を見出す研究である。この講義では、対照研究の基本的な考え方について述べるとともに、井上がおこなった対照研究(主にテンス・アスペクト・モダリティの対照研究)の事例を紹介する。対象言語は主に日本語・中国語・韓国語である(中国語・韓国語に関する知識は必要ない)。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The field of contrastive linguistics is concerned with contrastive analysis and comparisons between various languages. It aims to 1) discover specific traits of each language, and 2) develop an unbiased approach to all languages. This course explains the basic concepts of contrastive linguistics, with examples drawn from Dr. Inoue's own research (which focuses on contrastive analysis of tense, aspect, and modality). Most case studies involve Japanese, Chinese, and Korean language (knowledge of Chinese and Korean is not required).

5. 学習の到達目標：

対照研究の基本的な考え方、および「2つのものを公平に見る視点を見出す」感覚を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn the basic concepts of contrastive linguistics; students will also understand the principle of unbiased approach to the objects of comparison.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 対照研究とは何か
- 2 対照研究のタイプ (1)
- 3 対照研究のタイプ (2)
- 4 日本語と中国語のコミュニケーション (1) : 「はつきり」と「あいまい」
- 5 日本語と中国語のコミュニケーション (2) : 「親しみ」と「はりあい」
- 6 日本語と韓国語の文法 (1) : テンス
- 7 日本語と韓国語の文法 (2) : アスペクト
- 8 日本語と韓国語の文法 (3) : 動的叙述性と文法
- 9 日本語と中国語の文法 (1) : アスペクト
- 10 日本語と中国語の文法 (2) : テンスの有無と文法現象
- 11 日本語と中国語の文法 (3) : 文末助詞
- 12 日本語と中国語の文法 (4) : 領域感覚と文法現象
- 13 日本語と中国語の文法 (5) : 感動詞
- 14 対照研究と言語教育
- 15 対照研究に対する誤解

8. 成績評価方法：

受講態度およびレポートにより評価する。欠席が多い場合はレポートの提出を認めない。

9. 教科書および参考書：

(参考文献)

井上優『相席で黙っていられるか一日中言語行動比較論一』(岩波書店、2013年)

生越直樹編『シリーズ言語科学4 対照言語学』(東京大学出版会、2002年)

中川正之『漢語からみえる世界と世間』(岩波現代文庫、2013年)

10. 授業時間外学習：

1 回目の授業の際に講義資料を配布するので、事前に目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-LIN303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：コーパス言語学の理論的基盤

2. Course Title (授業題目) : Theoretical basis of corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：

コーパスの手法による言語研究について、コンピューター以前の言語研究方法に対する言語学史的な考慮も含めつつ、理論的な講義する。コーパス言語学及び言語学の様々な研究手法に関する参考資料を読むことによって、コーパス利用の特性を際立たせる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Lectures are given on linguistic studies utilizing corpora. Reading various documents on corpus linguistics and other linguistic approaches will highlight the characteristics of the corpus approach.

5. 学習の到達目標：

種々の言語学研究法との対比におけるコーパス言語学の特徴を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand characteristics of corpus linguistics in contrast with other approaches to linguistic studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：言語学の流れ（19世紀まで）

第2回：言語学の流れ（20世紀前半）

第3回：言語学の流れ（20世紀後半）

第4回：コーパス言語学の成立

第5回：コーパス言語学の展開

第6回：コーパスの設計

第7回：さまざまなコーパス

第8回：アノテーション

第9回：表記

第10回：多義語と同綴語

第11回：コロケーション

第12回：構文の検索

第13回：社会言語学的要因

第14回：より高度な利用

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

テキストは用いない。参考資料を授業中に適宜配布する。

10. 授業時間外学習：

参考資料をさらに深く読み込み、言語現象への考察を深め、自己の研究姿勢との関係について考えること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB61404, 科目ナンバリング：LHM-LIN303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：テキスト処理の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to text processing

3. 授業の目的と概要：

主な対象言語を日本語とし、必要に応じて英語における事情も参照しながら、主として以下の事項について講義する。さらに実習により、その知識をより深め、また応用力を磨く。

- ・テキストアーカイブとコーパス
- ・正規表現
- ・KWIC コンコーダンサーと関連のツール
- ・オンラインコーパス検索

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

コンピュータを用いてテキストを分析する方法について、基本的な知識と技術を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 外国のテキストアーカイブ
3. 国内のテキストアーカイブ
4. 英語圏のコーパス概観
5. 日本語のコーパス概観
6. 正規表現
7. 正規表現 (続き)
8. 正規表現 (続き)
9. 正規表現 (続き)
10. 英語用のコンコーダンサー
11. 英語用のコンコーダンサーと関連のツール
12. 日本語のコンコーダンサー
13. 日本語のコンコーダンサーと関連のツール
14. オンラインコーパス検索
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 40%、レポート 60%

9. 教科書および参考書：

参考書：大名力 『言語研究のための正規表現によるコーパス検索』(ひつじ書房, 2012)

ほか、<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> に掲載。

10. 授業時間外学習：

紹介したサイトやツールは自身の関心に応じてさらに使ってみて、その機能を体感すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/textprocessing.html> も参照すること。

科目名：言語交流学各論（学習・言語心理学）／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：木山 幸子（准教授）

講義コード：LB53205, 科目ナンバリング：LHM-LIN322J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：学習・言語心理学方法論

2. Course Title (授業題目)：Methodology of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：

学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の方法論の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの研究目的に対してなぜこのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The studies of learning psychology and psycholinguistics involve scientific investigations utilizing experiments to better understand how human behavior changes. In order to have a broad overview of the methodology in these fields, students are required to summarize a research article to share with other students of the course. They will think about connections between purposes and procedures of each article to learn essential components of scientific research.

5. 学習の到達目標：

学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の研究論文の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Upon completion of this course, students should have a general understanding of concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills to use their everyday vocabulary to share major points of research articles in these fields with those who without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

測定法・実験デザイン（教員）

実験研究の論文構成（教員）

生得的行動（受講生）

条件づけ（受講生）

強化（受講生）

刺激性制御（受講生）

高次の学習（受講生）

言語と文化（受講生）

語彙の獲得（受講生）

文法の獲得（受講生）

言語の障害（受講生）

言語の生物学的基盤（教員）

8. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献のパッケージを配布する。

10. 授業時間外学習：

受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：木山 幸子 (准教授)

講義コード：LB63204, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語実験・調査実践

2. Course Title (授業題目)：Practicum of experiment and survey of language

3. 授業の目的と概要：

本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が指導しますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment or a survey to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment/survey, preparing materials and the program, data collection, analysis, interpreting and summarizing the finding, and presentation. Each student needs to be cooperative with other membersto carry out an independent research until the course completion, under supervision of the instructor. The activity will let you find empirical language studies fascinating.

5. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, facing the big difference between actual human language processing and what you have imagined about it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- ・テーマ策定
- ・研究倫理
- ・研究デザイン立案
- ・実験・調査準備
- ・実験・調査実施
- ・取得データ分析
- ・データの解釈
- ・研究のまとめ
- ・研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらふことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：後藤 斉, 小泉 政利, 木山 幸子 (教授・准教授), 熊 可欣 (非常勤講師)

講義コード：LB55302, 科目ナンバリング：LHM-LIN311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：

授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3 年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4 年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向について

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will deliver an oral presentation, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion, and conclusion of the article.

2. The presenter is supposed to deepen their understanding of methods of linguistic studies and presentation on the bases of the reactions from the audience.

3. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will be able to narrow down their interest in language and eventually find a topic of their thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の紹介・研究計画発表、質疑応答

3. 論文 2 の紹介・研究計画発表、質疑応答

4. 論文 3 の紹介・研究計画発表、質疑応答

5. 論文 4 の紹介・研究計画発表、質疑応答

6. 論文 5 の紹介・研究計画発表、質疑応答

7. 論文 6 の紹介・研究計画発表、質疑応答

8. 論文 7 の紹介・研究計画発表、質疑応答

9. 論文 8 の紹介・研究計画発表、質疑応答

10. 論文 9 の紹介・研究計画発表、質疑応答

11. 論文 10 の紹介・研究計画発表、質疑応答

12. 論文 11 の紹介・研究計画発表、質疑応答

13. 論文 12 の紹介・研究計画発表、質疑応答

14. 論文 13 の紹介・研究計画発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、配布すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：後藤 斉, 小泉 政利, 木山 幸子 (教授・准教授)

講義コード：LB65302, 科目ナンバリング：LHM-LIN311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目) : Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：

3年生は前期に引き続き論文紹介を行い、それを卒業論文にどう繋げるかを発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course third year students will deliver an oral presentation of a journal article of their own choice, while fourth year students an interim report of their thesis. Oral presentations will be followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion of the article/thesis.

2. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop skills to write better theses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
3. 論文2の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
4. 論文3の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
5. 論文4の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
6. 論文5の紹介発表、質疑応答
7. 論文6の紹介発表、質疑応答
8. 論文7の紹介発表、質疑応答
9. 論文8の紹介発表、質疑応答
10. 論文9の紹介発表、質疑応答
11. 論文10の紹介発表、質疑応答
12. 論文11の紹介発表、質疑応答
13. 論文12の紹介発表、質疑応答
14. 論文13の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：

発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：後藤 斉 (教授)

講義コード：LB65206, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：実践音声学

2. Course Title (授業題目) : Practical phonetics

3. 授業の目的と概要：

国際音声記号の概要に関する知識を前提としつつ、音声の発出に対する細かい実験的観察を行うことによって、音声記述の方法をはじめ言語の音声面の全般的理解を理論的かつ実践的に深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course is aimed to deepen the understanding of phonetic aspects of language theoretically and practically.

5. 学習の到達目標：

音声言語の生成と記述、分析について、観察と訓練をへて、実践的な理解を得る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will gain practical understanding on the production, description and analysis of speech.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス、言語における音声

第2回：気流機構

第3回：発声

第4回：子音の調音：狭め

第5回：子音の調音：位置

第6回：同時調音、二次的調音

第7回：音連続

第8回：母音の調音

第9回：基本母音

第10回：母音の音響学

第11回：プロソディー

第12回：持続時間

第13回：音素

第14回：音素体系

第15回：全体のまとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

キャットフォード『実践音声学入門』（大修館書店、2006）

参考資料は授業中に適宜配布する。

10. 授業時間外学習：

授業時間外の実習や観察が必要となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB53504, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：統語論初級

2. Course Title (授業題目)：Syntax: Elementary Level

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course deals with the basic concepts and principles of generative syntax. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of generative syntax.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. X バー理論 1
3. X バー理論 2
4. X バー理論の機能範疇への拡張 1
5. X バー理論の機能範疇への拡張 2
6. 意味役割 1
7. 意味役割 2
8. 助動詞と機能範疇 1
9. 助動詞と機能範疇 2
10. 主要部移動 1
11. 主要部移動 2
12. DP 移動 1
13. DP 移動 2
14. Wh 移動 1
15. Wh 移動 2

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：小泉 政利（教授）

講義コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：統語論中級

2. Course Title (授業題目)：Syntax: Intermediate Level

3. 授業の目的と概要：

この授業では、生成統語論の基本的な概念と原理を学びます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course deals with the basic concepts and principles of generative syntax. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：

生成統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of generative syntax.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 移動に関する統一的理論 1
3. 移動に関する統一的理論 2
4. 動詞句の詳しい構造 1
5. 動詞句の詳しい構造 2
6. 繰り上げ, コントロール, 空範疇 1
7. 繰り上げ, コントロール, 空範疇 2
8. 省略 1
9. 省略 2
10. 束縛理論 1
11. 束縛理論 2
12. 言語の(非)階層性 1
13. 言語の(非)階層性 2
14. 言語の(非)階層性 3
15. 復習とまとめ

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：

自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は前期の「言語交流学演習」の続きです。これまで統語論を全く勉強したことのない人は、履修登録をする前に授業担当者（小泉）に相談してください。

This course is open to students who have completed an introductory course of syntax.

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：熊 可欣（非常勤講師）

講義コード：LB52209, 科目ナンバリング：LHM-LIN312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：言語のパラメトリックデータ分析法

2. Course Title (授業題目) : Parametric statistics for language research

3. 授業の目的と概要：

科学的な言語研究を行うために必要とする基礎的な分析法を紹介する。初心者でも適切にデータを扱うことができるように、調査や実験のデザイン、データの整理、統計解析や結果の解釈等といった言語研究を実証的に行うための方法を説明する。コーパス研究や実験研究でありそのような疑似データを統計的に分析し、ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course introduces basic statistical methods required for language research. This course aims to instruct students on the process of conducting scientific research, organizing data, doing statistical analyses, and interpreting results. Students will learn how to analyze parametric data through practices such as analyzing pseudo data that are likely to be collected from corpus or experiments using Software R.

5. 学習の到達目標：

言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を、とくにパラメトリックデータの側面について把握する。また、自身が扱う言語データについて、自発的に分析方法を考える素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand the essential points of basic parametric statistical analysis methods required for language research. They will be able to think about the data analysis spontaneously to deal with their data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- ・変数、記述統計、推測統計
- ・相関
- ・t検定
- ・分散分析
- ・回帰分析
- ・線形混合効果モデリング

8. 成績評価方法：

授業参加(30%)、中間テスト(30%)、期末テスト(40%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。資料を配布する。

[No textbooks will be used. References are handed out at every class.]

10. 授業時間外学習：

講義内容を復習すること。

[Students are required to review for each class.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ申し出ること。

[If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.]

